

◆2016年活動報告(3月号)

国費留学壮行会他

平成28年3月27日

在グアテマラ日本大使館

大使 川原 英一



◆国際ジャズ・フェスティバルへ日本グループが初参加

当国では、毎年3月上旬、恒例の国際ジャズ・フェスティバルがあります。日本は、今回、初参加しました。ミカミ・クニ・ジャズグループは、NYなどで活躍されており、今回初めてのグアテマラ公演でした。ジャズ、ベースギター、パーカッション構成で、懐かしいジャズをコミカルかつ軽快に演奏され大いに会場が盛り上がりました。当地の音楽学校でのワークショップで意気投合された当国のローズ・アギラールさんが、途中からボーカルおよび演奏者として特別に参加、サクソフォーンとの合同演奏もありました。アンコール曲には、ジャズ風アレンジされたグアテマラと日本の曲を演奏し、満員の観客は、最後まで大変喜んで盛り上がっていました。公演終了後、日本のジャズが大変素晴らしく、楽しい演奏であった、との声を多く方々からお聞きすることが出来ました。



◆サンタ・ローサ県視察(地中海ミバエ対策、草の根小学校)

(1) 3月上旬、首都から車で南東に1時間半、地中海ミバエ対策施設があり、訪問しました。ミバエに果樹が汚染されると、商品価値がなくなるところ、この施設では、ミバエのオスの卵をふ化し、幼虫からサナギになったところで、放射線(コバルト60)を照射して遺伝子操作により不妊虫を大量に生産しています。不妊虫となるミバエをサナギのまま米国、メキシコ、中南米各国に輸出をしています。この方法により、長年にわたる殺虫剤の使用によるミバエの駆除に比べてコストが安く駆除が出来ます。この施設には、天野 IAEA(国際原子力機関)事務局長も2月に訪問されています。大変に環境に優しい工場



で数百名の方が3交代で稼働しているとのことでした。

(2) サンタ・ローサ県に大使館草の根協力で建設した小学校施設の一つを訪問しました。校長先生から全校児童に日本がこの学校建設を支援してくれたとの紹介がありました。子供達に将来何になりたいかと聞いた

ところ、学校の先生、医者、警察官、家の家業である農業に従事したい等の思いを元気に語ってくれました。



◆国費留学生壮行会

3月16日、国費留学生として4月から日本各地の大学等で研究を開始する当地の若者6名の壮行会を日本大使公邸で行いました。今回の国費留学生を含めて、これまでグアテマラより日本で学



んだ方は101名になります。当日は、ロペス教育大臣（←写真右端から4人目）、今回留学生の出身大学学長・学校関係者、元国費留学生などの方々にお集まり頂きました。当方から日本へ旅立つ国費留学生に日本での充実した研究生活ばかりでなく日本文化も楽しんで頂きたいこと、留学後は、各分野での活動を通じて当国と日本の「架け橋」となることを切に願っていますと申し上げました。



◆草の根プロジェクト署名式（3月8日）

8日、ホンジュラス国境に近いチキムラ県オロパ市近郊の2集落の小学校校舎建設予定案件について、大使館で署名式があり、NGO団体（ワールド・ビジョン）関係者及び2つの集落の児童・先生にお集まり頂きました。校舎の屋根や壁が一部崩れ、トイレも危なくて



不衛生といった厳しい学校環境にある子供達に、早く新校舎がプレゼント

できるよう、地元住民の全面協力を得て早くに完工で

きるよう当方からお願いをしました（右上写真：当地紙による報道例）。

◎帰国協力隊員6名との懇談

2年間のグアテマラ各地での協力隊員としての活動を終えた6名の方が当館を訪問頂きました。

環境協力隊員のうち4名は、派遣先の自治体で、例えば、小・中学校や教員養成学校で環境教育へのゴミ処理の指導、生ゴミ・リサイクルなど身近な課



題からの取り組みまれており、また、保健センターでの母子・乳幼児の定期健康チェックと予防接種（ポリオ、はしか、BCG など）、成人の糖分・塩分過剰摂取を控える活動などの支援活動をされた栄養士隊員、小学校教員のための算数教育指導を行った教育隊員の方々です。各隊員とも地方自治体と連携しつつ、現状を知るため、地域を広く見てまわり活動をされたことを伺いました。また、ホストファミリーを始め、知人・友人がこの2年間に沢山できたとの隊員も述べておられました。

◆ソロラ県の草の根支援プロジェクト小学校を訪ねて

3月17-18日、首都から車で向かって約3時間のところにソロラ県があり、先住民が県の人口の8割以上、識字率が低く、貧困層が多い、その中でも最貧地域であるツヌナ



集落に日本が草の根プロジェクトとして、カステイジョ・コルドバ財団（民間のボランティア活動団体）と地域住民の協力を得て建設予定の中学



校の起工式に出席し（左上～左下までの写真4枚）、また、昨年、当館草の根協力プロジェクトで完成したパオメル地区小学校も訪問（右下最下段の写真）しました。



同県の中心都市で、国内で最も美しいと言われているアティトラン湖の玄関にあるパナハッチェル市に新市長を訪問しました。ウリサル市長（右上写真、左端の方）に同市の課題について、おたずねしたところ、教育、環境対策、特に湖の水質汚染をこれ以上悪化させないための下水処理プラント増設、ゴミ処理施設整備などが必要であるが、多額の費用がかかり、対応が進んでいないとのことでした。同市内で活躍中のJICA協力隊員2名のうち1名（右上写真の右端）は、



市内高校で観光推進について教えていました。また、もう一人は、野菜栽培の指導隊員（右上写真の左から2人目）です。

（→右写真は、パオメル小学校児童による踊り披露、右端写真は小学校校庭での集会風景）



◆日本人学校卒業式



3月上旬、日本人学校の卒業式があり、家内と二人で出席を致しました。在校生・卒業生による送辞や答辞、小学生全員での合唱などがあり、楽しい卒業式でした。 昨年は日本とグアテマラ外交関係80周年の年であることから、日本人学校の児童生徒にも各種行事に積極的に参加をしてもらいましたが、児童の皆さんの挨拶から、貴重な経験として心に残った様子がうかがえました。

◆セマナ・サンタ（復活祭）

復活祭に先立つ聖週間の祭りとして世界一美しいと言われている、グアテマラの古都アンティグアの聖行進（las procesiones）を、間近に見る機会がありました。 3月23日から始まった聖行進は多数のカトリック信者が苦難のイエス像やマリア像のプロセションを次々に担いで、古都を練り歩きます。途中、所々の道にアルフォンブラという、おが屑に鮮やかな色を付けた花絨毯が設えられて（左上写真）おり、練り歩きます。大きいものでは、約80人の信者が交代に担ぎます。 3月24日午前、サン・フランシスコ教会から出発した聖行進は大変に立派なものでした（真下中央及び右下の写真）。聖行進の前の方には、ローマ軍兵士等がおり、後部には、音楽隊がついており、音楽に合わせて練り歩き、大変に盛大なものです。聖行進は、教会毎に



行われており、夜に出発、午前中、また、午後に出発するなど様々で、行進する道筋も、それぞれ同じ時間帯には、かち合わないよう塩梅されておりました。（了）